

さわる/不可侵領域
Touch/Sanctuary



「告知 / 羽を持ってども面を知る」2024 綿布 / アクリル、スプレー、ペン 980×2170mm

吉田鷹景は、「形」についてのリサーチを通して、
ミニマルで、コンセプチュアルな絵画を展開しているアーティストです。
立方体に見える遠近法構造のキャンバスピースを繰り返し縫い合わせたキャンバス地に、
人や動物のシルエットを配置した絵画、鑑賞者の視点の移動を取り込んだ絵画インスタ
レーションなど、厳選した素材と独特のシンプルな形式で展開しています。
遠近法、黄金比など、美術の基本概念・観念を改めて再考する機会にもなるでしょう。
(KUNST ARZT 岡本光博)

経歴

2001年 大阪府生まれ
2024年 京都市立芸術大学在学中

2024年11月5日（火）から10日（日）
12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT
605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

さわる/不可侵領域
Touch/Sanctuary

アーティスト・ステートメント

形を持つことにより現れる事柄、形態を備えて成立するようなものがある。例えば、遠近法という概念は線の集まりや重なりによって表され、黄金比という観念は図形やモノに当てはめられて立ち現れる。このように事象や形態というものにはそのモデルとなる法則があり、それが「形」というものの下で社会に広く浸透している。

そのような形の中にある強い法則は個人や社会に対し画一性や硬直性を生み、人々を盲目にさせうるリスクを孕んでいると思う。このように形というものが持つ罫を露わにする破戒的、挑発的行為を目で見る、見られるというアプローチの下で行っている。

鑑賞者の能動性を回復させ形態というものが閉ざしているイメージの固執化を作品を用いることによって取り戻す、または新たに発見させることを目的とし、実践している。絵画というものをキーワードに置き、脈絡、文脈を変えることなく、形態によって形態に対し言及すること、逸脱することこそが必要であると考え、形態の在り様と絵画の在り様を複合させるような絵画装置の制作を行う。



左上

「歩み、ぶつかる前のしっぽ切り」
2024
綿布/アクリル、スプレー、ペン
915×732mm

右上

「振り向く正面の目」
2024
キャンバス/アクリル
1500×1500×200mm

左

「宙に立つ」
2024
ミクストメディア